

享和四年四月四日。前田齊廣の歸城したに因る。

享和四年九月十四日。前田裕次郎が卯辰觀音院への宮參を終へたに因る。

文化三年四月四日。前田齊廣の先に歸城したに因る。

文化六年四月廿六日・廿七日の兩日間。前田齊廣が新造の二・丸御殿に移徙したに因る。

文化八年二月廿六日・廿七日の兩日間。二・丸御殿全く竣成し、儀式能の行はれたるに因る。

文化八年八月十八日・十九日の兩日間。前田齊泰の生誕したるに因る。

文化九年四月四日。前田齊廣の歸城したるに因る。

文化九年九月廿四日。前田齊泰の卯辰觀音院に宮參を終へたに因る。

文化十年十二月廿四日から廿六日まで三日間。前田齊泰・芳姫・勇姫の婚約が幕府の許可を得たに因る。

文化十一年四月六日。前田齊廣の歸城したに因る。

文政五年十月十八日・十九日の兩日間。前田齊泰の柳營に於いて元服したに因る。

文政五年十二月十四日・十五日の兩日間。前田齊泰の相續したに因る。

文政七年四月六日・七日の兩日間。前田齊泰の入國したに因る。

文政十三年(天保元)六月朔日・二日の兩日間。前田慶寧の生誕に因る。

天保二年十二月十八日・十九日の兩日間。前田齊泰の參議に昇任したに因る。

天保十三年三月十四日・十五日の兩日間。前田慶寧の叙任せられたに因る。

弘化二年二月十六日から十八日に至る三日間。前田齊泰の脚氣癒えたるに因る。

弘化二年九月六日・七日の兩日間。前田慶寧の初めて入國したに因る。

弘化四年四月十日・十一日の兩日間。前田齊泰が參勤の途中震害を免れたに因る。

安政三年三月朔日・二日の兩日間。前田齊泰の權中納言昇任に因る。

慶應二年七月廿六日・廿七日の兩日間。前田慶寧の襲封入國したに因る。

明治二年六月十八日・十九日の兩日間。前田慶寧の賞典祿を受けたに因る。

ホンシヨウジ 本性寺 金澤野田寺町に在つて、長久山と號し、日蓮宗に屬する。天正十四年三田村作内・橋本總右衛門の二人前田利家に請うて之を枯木町に建立し、越前府中本興寺の子院教行院の僧を招いて寺主とした。後小立野に移り、次いで河原町に、元和元年今の地に轉じた。

ホンシヨウジ 本昌寺 石川郡金石町上越前町に在つて、日蓮宗に屬する。山號は妙喜山。正保二年日隨の創建する所である。

ホンシヨウジ 本照寺 羽咋郡阿川に在つて、眞宗東派に屬する。

ホンシヨウジ 本勝寺 鳳至郡道下に在つて、眞宗東派に屬する。

ホンシヨウジ 本正寺 石川郡四十萬に在つて、眞宗東派に屬する。明治十二年六月寺號の公稱を許された。

ホンジヨウジ 本淨寺 金澤芦中町に在つて、眞宗東派に屬する。初め越中城端に居たが、正保三年金澤十三間町に移り、萬治二年今の地に轉じたといふ。

ホンジヨウジ 本淨寺 石川郡須崎に在つて、眞宗東派に屬する。明治十二年六月寺號の公稱を許された。

ホンジヨウジ 本淨寺 鹿島郡上町に在つて、眞宗東派に屬する。

ホンジヨウジ 本成寺 能美郡濱に在つて、日蓮宗に屬する。元祿十四年日全之を小松に創立し、明治七年今の所に移つた。

ホンジヨウジ 本成寺 羽咋郡柴垣に在つて、日蓮宗に屬する。山號は長興山。應永中瀧谷妙成寺五代日立の創建に係る。

ホンジヨウジ 本乘寺 羽咋郡元女に在つて、眞宗東派に屬する。

ホンジヨウジ 本庄主馬 元和元年大坂の再役に足輕頭として出陣し首一つを獲、後辭して京に去つた。今の金澤主馬町は即ち主馬の第地があつた所といふ。可觀小説等に主馬の祿を三千石とするが、慶長十七年の土帳・元和二年の土帳共に千八百石とする。

ホンセイ 梵清 ↓タイヨウボンセイ 太容梵清。

ホンセイ 本誓寺 石川郡松任に在つて、眞宗東派に屬する。山號は坂本山。親鸞遺徳法輪集に、『加賀國石川郡松任本誓寺、往昔は天台宗なりしに、聖人國府へ御下りの旨承り、倉部川の邊まで迎出て聖人に謁し、信仰のあまり申て曰く、日もはや孤嶺にかたむきぬれば我寺にて一宿し給へと。聖人左右なくうけがひ給へば大に悦び、則ち聖人を供し奉り、いろ／＼珍物をと／＼へ參せて、夙夜法門の至理を承り、終に本宗をすて御弟子となれり。』とある。當寺藏に和銅五年書寫の大般若經零本一卷があり、今國寶に指定せられてゐる。↓ダイハンニヤキヨウ 大般若經。

ホンセイ 本誓寺 鳳至郡南に在つて、眞宗東派に屬する。初め新町分村にあつたが、天正十四年今の地に移り、元和三年十月前田利常から、高三石九斗四升の地を寄附せられた。能登名跡志に『本誓寺とて東方一向宗鳳至一郡の觸頭録所あり。此寺昔は石動山門派の密院なりしとて、泰澄大師などの什寶數多あり。』とある。寺藏の文書に、畠山某の書、畠山家臣連署の書、古海三助の書、秀次の制札、温井備前の書三通、前田孫四郎の書、前田播磨の書四通、前田修理の書三通、長景連の書一通、長續連の書二通、その他本願寺顯如・實如等の消息がある。

ホンセイロン 本政論 一冊。文化十四年丁丑富田貞幹著。農が國の基たる所以を述べ、加賀に於ける當時の政治の缺陷と、牧民の大意とを論じたるもの。

ホンゼジ 本是寺 金澤六斗林に在つて、濟生山と號し、日蓮宗に屬する。慶安二年立像寺五代日理河原町に濟生庵を起し、明暦三年野田寺町に轉じ、寺號を本是寺と稱し、寛文十一年今の所に移つたといふ。

ホンセン 梵仙 ↓チクウンボンセン 空雲梵仙。

ホンセン 本泉寺 河北郡二俣に在つて、眞宗東派に屬し、本願寺巧如の三子如乘諱は宣祐の開く所である。次いで蓮如の二子にして宣祐の婿であつた連乘諱は兼領は、越中勝興寺に住し、同國瑞泉寺と共に宣祐の後を承け、兼ねて本泉寺を置したが、文明九年先づ瑞泉寺の兼住を止め、十一年勝興寺を蓮雲に

今この地に轉じたといふ。